

平成23年度 授業改善推進プラン

東京都北区立紅葉小学校

平成23年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	○「読む能力」は言語についての知識・理解・技能の影響が出ている。言語事項の力をつけることが課題である。 ○「書く能力」は関心・意欲・態度に大きくかかっている。関心・意欲を高めることが課題である。
社会	○ 関心・意欲を高めることが課題である。資料の読み取りを苦手とする児童が見られる。また、個人差が大きい。 ○ 基礎的・基本的な知識を活用する面で課題がみられる。
算数	○「表現・処理」については良好だが、いろいろな考え方や数学的な考え方、答えを見通すことにまだ課題が見られ ○ 学年が上がるに伴い、「図形」や「数量関係」に課題がみられる。また、個人差も大きい。
理科	○ 観察・実験に対して、関心・意欲の高い児童が多い。反面、科学的な思考が十分でない傾向が見られる。 ○「物質とエネルギー」や「地球と宇宙」の定着に課題がみられる。

本校の教育目標
1 思いやりのある子
2 よく考え 表現する子
3 明るく 元気な子
4 最後までやりぬく子

本校が児童に育成したい力
○ 学ぶ意欲と学ぶ力(自尊心、自律と自省の態度、謙虚な心)
○ 課題を見つけ自力解決する力(課題発見、課題解決、想像し創造する力、判断力)
○ 基礎的・基本的な学力(知識、読み書き算の技能、思考する力)
○ 人と継続してかかわる能力(表現力、相手意識、共生・協働の意欲と喜び)
○ 感動する心、自立と協調、寛容と自己表現
校内における学力向上推進体制
○少人数授業の計画的な実施 ○異学年交流学习の意図的展開によるコミュニケーション能力の向上 ○指導体制の充実 ○授業力を高める教職員の研修推進

学力向上にかかわる経営方針
○一関わり合いを通して学び、 自分に自信が感じられる子どもを育てる一 ・分かる喜び・出来る楽しさを味わ えるようにする。(指導体制の充実) ・家庭学習の習慣を身につけさせる。 (計画的・継続的に基礎・基本の習熟を図る) ・教職員の研修推進。(教材教具の工夫)

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
○ 児童の実態を考慮し、基礎 的・基本的な内容が確実に身 につくようにする。	○ 週1回(金曜日)朝の15分間 を朝読書の時間にあて、学習 の基盤となる集中力や思考力 の育成を図ると共に読書活動 の充実を図る。	○全教科・全領域の教育活動を 通して言語力の向上を図る。 ○全学級で公開授業を行い、授 業観察カードを活用し授業改善 を図る。 ○外部講師を活用した実技研修を 行い、授業力を高める。	○ 評価観を転換し、「加点評価」 「肯定的評価」「評価規準の精 査」に努める。 ○ 実践過程を見守り、努力を 認め、励ます。	○家庭学習の定着や地域ボラン ティア(田植え、お話し、読み聞 かせ)を活用し指導の充実を図る。 ○交流教育、土曜公開、ホームペ ジの更新、保護者会等を工夫す ○学校評議委員およびPTA役員 と連携を深める。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

北区立紅葉小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」では、話題に沿って話し合う力が不十分なので、活用する力を付けていきたい。 ・「読むこと」では時間的な順序、事柄の順序を考えながら、場面の様子について、想像を広げながら読めるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」では、身近な話題に沿って話し合う場面を多く設定し、大事なことを落とさずに聞いたり話したりできるようにする。 ・「言語についての関心・意欲」はかなり高いので、キーワードをもとに順序や様子を考えたり、想像を広げたりしながら、読めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業以外にも、身近な話題に沿って話し合う場面を多く設定し、進んで話したり聞いたりできるようにする。 ・教材文以外にも、関連図書の紹介やおすすめの本の紹介などを通し、読書活動の日常化を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・四観点の中では、特に「書く能力」が不足している。作文を書くことをいやがる児童は少ないが、語彙数が少ないことから適切な表現ができない。 ・「読む能力」は昨年度の課題として取り組んできた結果身についてきたので、継続指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く能力」を高めるためには、国語の授業以外でも書く活動を意図的に増やしていく。語彙数の増加のために、今後も読書活動を奨励していく。 ・「読む能力」を育てるためには、今後も登場人物の気持ちを想像する指導を丁寧に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた作文をお互いに読み合っ感想を伝えたり、よく書いている作文を紹介したりするなど、学び合う場を設定し、表現方法を広げていく。 ・教師の読み聞かせや学級文庫の充実など、読書環境を今まで以上に整備していく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度からの継続的な指導で、漢字の読み書き、言葉などの基礎的な力はついてる。 ・「話す・聞く能力」と「読む能力」がやや低いので、「話し合いの内容を聞き取ること」や「物語、説明文の内容の読み取り」を重点的に指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く能力」の向上については、話の中心に気をつけて聞いたり、互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞いたり話したりできるように指導していく。 ・「読む能力」の向上については、目的に応じて細かい点に注意して読むように丁寧に指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書き、言葉などの基礎的な学力の定着を図るために、今後も繰り返し漢字練習や小テストなどを行う。 ・国語科の学習以外でも話し合う機会を多く作り、話す・聞く能力の向上を図る。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・作文を「書く」能力、説明文を「読む」能力がまだ十分ではない。ともに、文と文とのつながりや文章の組み立てを理解していることが共通して重要なことである。その点の指導がまだ不十分であったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の文同士がどのような言葉でつながっており、それによってどのような関係になっているのか、段落の内容から段落相互がどのような関係になっているのかを理解し、要旨をつかませるようにしていく。そうした中で要約文を書かせ、作文を書く能力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一文ごとに内容を理解させ、次の一文との関係を考えさせる。接続詞の種類やその効果を理解させ、基礎的な言語事項を理解させる。要約文を書かせ、読み合う。 ・上手な表現方法が用いられている作文を紹介し、表現方法を学び合う機会を設ける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・言語事項について基本的な知識が身につけていない。 ・作文など「書く力」は決して低くないが、物語文・説明文共に「内容を読み取る力」が大きく不足している。 ・漢字を読むことはできるが書くことは苦手としているので、反復練習に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習、宿題で目標を決め、継続して取り組ませる。 ・「わからないときはすぐに聞く、調べる」を徹底し、あきらめずに学習を続けていく姿勢をつくっていく。 ・本に触れる機会を増やし、情景を想像できるように言葉に注目をさせて読み取らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テスト、まとめテストを定期的に行う。個に応じた目標得点を、児童と相談しながら設定していく。 ・時間の隙間に読書ができるよう学級文庫の充実を図るなど読書環境を今まで以上に整備していく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

北区立紅葉小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・見学や調査などの活動には意欲的に取り組むが、気がついたことを発表することには個人差がある。 ・絵地図などの資料から、わかったことをノートにまとめたり、発表したりすることには課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学や調査をする際の目的や観点をより具体的に明確に提示する。 ・調べたり考えたりする時間を十分確保し、発表の場を多く設ける。友だちの考えを聞くことによって着眼点を理解し、発表することにも慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせて、視聴覚教材などの各種資料を効果的に活用していく。 ・調べたことやわかったことを新聞形式や発表会など、さまざまな方法で表現できるように、いろいろな例を紹介していく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象への関心や意欲が高い児童が多いため、調べ学習に積極的に取り組むことができる。 ・思考・判断の力がやや低いので、様々な資料(特に写真)から気付くことや分かることを挙げたり、思考・判断したりすることを重点的に指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真からの読み取り、グラフや表などの読み取りや活用を多く取り入れて、社会的な思考・判断の力を伸ばしていく。 ・子供たち自身が資料を活用して考えられる時間を多くとるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験・見学の活動を取り入れ、実際に見たり体験したりできないものについては、写真や模型などの教材で補うようにしていく。 ・新聞やカードに調べたことをまとめる際に、相手意識をもち、理解しやすいような工夫を考えさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や写真、絵を資料として活用することが多くあった。一方、表やグラフの読み取りやそれを基にした思考力や想像力を身につけさせていく指導が今後必要となってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表から現状を具体的に想像してどのような社会的事象が起きているのかを把握する能力を高める。 ・グラフから読み取れる実態や課題、その解決方法について話し合う場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基にした問題解決学習をより一層取り入れる。 ・資料の精選を図る。 ・資料の読み取りに必要な技能(読み取るべきことや観点など)を繰り返し学習する。 ・調べ学習に必要な資料の収集を児童にさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元(内容)によって個人の得手、不得手の偏りが非常に大きいことが課題。 ・関心の低さが、全体の正答率の低さに繋がっている。 ・「日本の水産業」「わたしたち生活と情報」の内容がよく理解できていない児童が多いことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に書かれている知識の学習に加え、できるだけ体験的・具体的な学習を取り入れ、頭と体と心をつなげて身につける学習を目指す。 ・児童の関心をひく導入や展開を考えたり、教材を作成したりと、より興味を引く授業を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習、出張授業など、より体験的に学習できるような方法を考える。 ・グループ学習や調べ学習などで、お互いの意見を交流する時間を意識的に設け、お互いに刺激を与え合うことで児童の意欲を高める。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

北区立紅葉小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念は理解しているが、問題を読みこなせなかったり、計算ミスをしたりする児童が多い。 積極的に課題に取り組む児童と理解するのに時間がかかる児童と、2極化する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解いたら、必ず見直しをする習慣をつけさせる。 課題を明確にし、既習内容を使って、解決策を考えていけるようにする。 具体物の使用や操作活動を多くとり入れるなど、具体的にイメージできるよう教材・教具の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、問題解決のポイントとなる言葉を探させたり、解決の順序を考えさせたりする。 課題を早く終えた児童には、理解が難しい友達に説明するなどして、理解を確実なものにさせる。 100マス計算を定期的に行い計算力維持を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 図形の「箱の形」の正答率が低いことから、立体図形の理解を正しくできる指導方法を改善していく必要がある。 計算問題はできるが、文章問題の解決に課題が残る。文章の正確な読み取りに重点を置いて指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 立体図形の正しい理解のために、具体物を操作し自分で確かめる体験をさせる必要がある。平面図でも立体を想像できるような算数的活動を多く取り入れる。 文章題を図で表したり、少人数体制を生かし、正確に文章題が読み取れているかどうか、一人ひとりの理解の程度を把握したりして、効果的な指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を早く終えた児童には、理解が難しい友だちに説明するなどして、より理解を確実なものにさせる。 少人数担当者との連絡を密にし、課題設定や学習材の提示などを児童の実態に合わせて柔軟に対応していく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 低学年の頃から、様々な方法で答えを導き出すような経験をしているため、「数学的な考え方」ができる児童が多い。 わり算の文章問題が期待正答率より6%下回っており、重点的に指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や家庭学習を利用し、反復して計算問題に取り組ませ基礎・基本の定着を図る。 さらに数学的な考え方や図形や数量の表現、処理ができるように様々な方法で(数直線や図、既習の内容を使って)問題を解けるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方の話形を提示する。 ICTを活用し、基礎・基本の定着を図ったり、課題提示を工夫したりしていきたい。 少人数担当者と情報交換を常に行いながら、個に応じた指導を心がける。
5年	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算は今後も活用する機会が多い学習内容であるため定着するよう繰り返し練習していく必要がある。 算数への苦手意識があり、難しい分からないという先入観が課題への取り組みに二の足を踏ませている。既習事項の確認にもう少し重点を置いて指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物やデジタル教材を活用しながら、苦手意識を感じさせないよう教材提示を工夫する。 学習のめあてとそれに対するまとめをしっかりと書く習慣を身につけさせるだけでなく、分かった概念を実際に課題解決を通して表現する時間を確保するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数担当者と連携を図り、児童の習熟度に応じた指導ができるよう、学習課題や教材を選定する。 レディネステストや習熟度をはかる小テストを活用し、既習事項の定着度を確認する。そして、いっその習熟度別少人数指導を推進する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な計算を含め、基本的な力が身につけていない児童が複数名いて、学級が2極化している。 「整数のなかま分け」「円周の角と円周」「百分率とグラフ」の内容の理解に大きく課題が残っている。 個別課題が必要な児童への指導法の工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の効果的な活用。児童が意欲をもてるような課題設定と習熟度(少人数クラス分け)にする。 宿題や朝学習の時間を活用し、基礎的計算力の向上と内容の復習、確認、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて個別課題を用意する。 少人数担当との連絡を密にし、課題設定や習熟度について柔軟な対応を心がけていく。 定期的に、既習学習の復習の時間を取り入れていく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

北区立紅葉小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や昆虫の成長に興味・関心が高く、実際に育てることによって意欲的に学習に取り組んでいた。 ・知識・理解の定着については個人差が大きく、個々の児童が適切に理解できるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物・昆虫の観察については、観察する視点をより明確にし、観察後には一つ一つ丁寧に確認する。また、複数のものを同時に観察することによって、違いや同じところを意識させ、そのものの特徴をとらえられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、図鑑やインターネット、デジタル教材などを活用し、学習内容の理解をより深く確実なものにしていく。 ・実験では、個々の予想を大切にしながら問題解決を図り、科学的な見方や考え方を育てるように指導する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に植物を育てたり、生長を観察したりすることができる。 ・物質とエネルギーの領域での科学的な思考力がやや弱い面がみられるので、実験の充実や実験の結果を自分の言葉で正確にまとめられるように授業を進めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の際に、問題把握、予想、実験、結果の流れを毎回とることによって、子どもたちの自力解決の手助けとなるようにする。流れが同じことで安心して取り組むことができる。 ・実験結果を自分の言葉でまとめ、意見を交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験できない活動や体験などについては、デジタル教材を活用し、理解を深める。 ・ノートへの記録を丁寧にさせ、自然事象への知識・理解をより深められるようにする。 ・グループ活動を多く取り入れ考えを深めさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に対する興味や関心は旺盛である。しかし、起きた自然事象に対して深く思考する力は十分に育っていない。学習問題を設定するところまでは、できるようになってきたが実験結果を基に考察し原因と結果の因果関係を抽象的な概念として理解させる手立てが少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画を立てさせる際に、何を調べる実験なのか、そして実験結果とその実験結果からどんなことが分かるのか明確にしてから、ノートに自分の予想を書かせる。 ・実験の経過を記録させるために、実験の何に注目して観察すればよいのか指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果や観察の結果を基にして科学的な考え方や見方ができるよう、事実を収集し、順序立てて説明させる場面を設ける。また、それを確実にノートに記録させる。 ・学習によって獲得した抽象的な概念を現実の場面ではどのように活用できるか考えさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象に対する児童の関心・意欲は低くない。 ・ほとんどの内容で、実験等の表現処理の力や、結果から考察する力などが身につけていないことがわかった。 ・実験や観察の時間を十分に取らず、話し合いやノートへの記述を通して考えさせることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成やグループ数、場の設定に配慮し、スムーズかつ主体的に実験や観察ができるようにする。 ・理科支援員との連携を密にし、実験・観察の時間を多く取り入れたりと、個別支援ができるようにしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に身近なものに関連づけて、理科的な事象に対する興味・関心をもたせるようにする。 ・体験（実際に見たりさわったり）できない内容については板書や表示などを工夫して指導する。 ・単元に合わせて、視聴覚教材を活用する。